

第4学年 国語科学習指導案

指導者

1. 日 時 令和2年9月30日(水) 第3校時(10:35~11:20)
2. 学年・組 第4学年1組 在籍37名
3. 活動場所 4年1組 教室
4. 単 元 「和」と「洋」の紹介文を書こう(「くらしの中の和と洋」東京書籍4年下)
5. 単元目標

- 「和室」と「洋室」がどのように比較されているのか読み取ることができる。
- 調べたことを目的に応じて引用したり要約したりすることができる。
- 自分の考えをまとめ伝え、他者の発表について意見や良いところを見つけることができる。

6. 評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の仕方を理解している。(2)イ	<ul style="list-style-type: none"> ・「和室」と「洋室」がどのように比較されているのかに注目し文章を読み取る。C(1)ウ ・「和」と「洋」について調べたことを比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にする。B(1)ア ・互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。A(2)ウ 	<ul style="list-style-type: none"> ・暮らしの中の「和」と「洋」の違いに関心を持ち、目的に応じて引用したり要約したりして、「和と洋の紹介文」を書こうとしている。

7. 単元間の関連

前単元

「ヤドカリとイソギンチャク」段落相互の関係について理解し文章の構成を捉えることができる。

本単元

「くらしの中の和と洋」何をどのように比べているのか読み取り比較の仕方を意識して調べたことをまとめることができる。

次単元

「数え方を生みだそう」筆者の考えを読み取り日本語の数え方に対する自分の考えをまとめることができる。

8. 指導にあたって

【児童観】

本学級の児童は素直で何事にも真面目に取り組むことができる。また児童同士の仲も良く、互いの良い所を見つけることができる児童が多い。説明文の前単元「ヤドカリとイソギ

ンチャク」では、問いとその答えを導き出すことができていた。しかし、文章を抜き出すことはできるが文章を読み取って要約したり、自分の意見を書いたりすることが苦手な児童もいる。そのため、日記を書き自らの思いを表現する活動を行い、書くことになれるようにしている。

また、人前で表現することが苦手な児童が多い。「恥ずかしい」「間違えたらどうしよう」と自分の意見に自信を持ってないことがあるので、少人数での発表の場を設定して話すことになれるようにしている。少しずつ全体の前で発表できるようになっているが、まだ少ないのが現状である。

【単元観】

本単元では、文章中の「和」と「洋」の対比を読み取り、調べたことを目的に応じて引用したり要約したりして紹介文を書くことをねらいとしている。

本教材は、暮らしの中にある「住」における「和」と「洋」の違いやそれぞれの良さを対比して、分かりやすく説明したものである。本文は始め、中、終わりの説明文の典型的な尾括型の構成になっている。中は和室と洋室の大きな違い、「すごし方」という観点から分かるそれぞれの良さ、「使い方」という観点から分かるそれぞれの良さを三部に分けられる。終わりでは、私たちの暮らしは和と洋の両方の良さを取り入れていることを筆者の主張として述べられている。

また、順序や具体例、対比などを表す指示語や接続表現が多く使用されているため本文の対比構造を理解しやすくなっている。

【指導観】

第Ⅰ次の導入では、朝食はご飯もしくはパンのどちらを好んで食べるのかという発問から児童に自由に意見を求め、本単元では比較することや「和」と「洋」についての学習であるという見通しをもてるようにする。また、教科書内の挿し絵を基にそれぞれの違いや児童の経験をふりかえることで暮らしの中にある「和」と「洋」を身近に感じ、意欲的に学習に取り組めるようにする。そして、Ⅲ次に向けて活動についてふれ、学習の見通しを立てるようにする。

第Ⅱ次では、はじめに段落分けと段落ごとに整理する。本文を読み進める際は接続詞に着目し、それがどのような働きをするのかを確認する。特に対比を表す「一方」「それに対して」などの表現については説明文の対比構造を理解するための手がかりになる。

次に中の内容について、「和室」と「洋室」の大きな違いを述べた後に、「すごし方」と「使い方」の2つの観点からそれぞれの良さが述べられていることを読み取るために表を用いて整理する。

第Ⅲ次では第Ⅱ次で学習したことを生かし、本時では本文中にある「ざたく」と「テーブル」の比較と紹介文の作成をする。比較はそれぞれの良さを班ごとに意見を出し合い、全体で共有し、分類分けをする。その際に重さや高さなどの観点を基に分類をし、またその特徴を書き出す。紹介文は、本文中の対比構造を模倣した定型文を用いて空欄に当てはめられる

ようにする。

次に、各自が興味をもった「和」と「洋」を調べ比較し紹介文を書く。この学習では前時の内容を参考に、調べたことを引用したり要約したりできるようにする。単元の最後には書いた紹介文を発表し、感想を伝え合えるようにする。

この単元を通して、自分の考えを伝えるために、いろいろな文書から目的に応じて引用や要約する力、表現を工夫しながら読み手にわかりやすい文章を書く力を育てたいと考える。

9. 指導計画(全11時間)(本時9/11時間)

次	時	子どもの活動(○)	指導者の支援(◇) 評価(◎)
I	1	○学習の見通しを立てる。 ・私たちの身近にある「和」と「洋」について知る。 ・初発の感想を書く。	◇暮らしの中の「和」と「洋」の具体例として朝食を話題にあげ、朝食はご飯とパンどちらが好きなかという発問から本単元の内容に触れ、興味をもてるようにする。また挿絵を用いて「和」と「洋」を身近に感じられるようにする。 ◇本文を読んで思ったことや分かったことを書けるようにする。 ◎「和」と「洋」について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。
	2	○意味調べをする	◇知らない言葉や言い回しを調べることで本文の内容の理解を深められるようにする。
II	3	○文章の構成を捉える。	◇「和室」と「洋室」に印を付け、内容を読み取りやすくする。
	4	・本文の段落分けをする。 ・始め、中①、中②、中③、終わりに分ける。 ・始めと終わりの内容を読み取る。	◇接続詞に着目し、本文の内容のまとまりを考える。 ◎文章の構成を理解し、筆者の意見を読み取ることができる。
	5	○「和室」と「洋室」の大きな違いを読み取る。	◇「和室」と「洋室」の違いに気付けるようにする。 ◎「和室」と「洋室」の違いを読み取り、どう違っているのかを整理できる。
	6	○「和室」と「洋室」のすごし方の良さを読み取る。	◇「和室」と「洋室」それぞれのすごし方の良さや特徴を整理できるようにする。

	7	○「和室」と「洋室」の使い方の良さを読み取る。	<p>◎すごし方という観点から分かるそれぞれの違いや良さを読み取り、まとめられている。</p> <p>◇「和室」と「洋室」それぞれの使い方の良さや特徴を整理できるようにする。</p> <p>◎使い方という観点から分かるそれぞれの違いや良さを読み取り、まとめられている。</p>
III	8 本時	○学習したことをふりかえり、「和」のざたくと「洋」のテーブルを比較し紹介文を作る。	<p>◇「ざたく」と「テーブル」のそれぞれの良さを考え、観点や特徴を考えられるようにする。</p> <p>◇本文中の対比構造を模倣した定型文を用いて空欄に当てはめられるようにする。</p> <p>◎それぞれの良さを分類し、観点や特徴を考え、紹介文を書こうとしている。</p>
	9 10	○私たちの暮らしの中にある「和」と「洋」の違いを調べ比較し紹介文を作る。	<p>◇調べたことを引用したり、要約したりできるようにする。</p> <p>◎対比構造を理解し表現や言い回しを活用することができる。</p>
	11	紹介文を交流する。	<p>◇書いた紹介文を交流し、感想や友だちの良い所を伝え合えるようにする。</p> <p>◎友だちの発表を聞き、友だちの良い所を見つけようとしている。</p>

10. 本時の学習(8/11)

(1)目標

- ・「ざたく」と「テーブル」の良さを見つけ、その特徴と観点から紹介文を書くことができる。

(2)展開

子どもの活動	指導者の支援(◇) 評価(◎)
1. 本文の音読 2. 前時までの学習をふりかえる。 3. 本時の学習課題をつかむ。	◇各自で本文を音読するようにする。 ◇文中にある観点の一つを取り挙げ、良さと特徴を整理したことを確認する。 ◇課題を読むことで、課題を確認するようにする。
「ざたく」と「テーブル」の良さからちがいを見つけて、しょうかい文を書こう。	
4. 「ざたく」と「テーブル」の良さを見つける。 5. 1つ観点を選択し紹介文を書く。 6. 紹介文を交流する。 7. ふりかえりをする。	◇それぞれの良さを整理し、特徴と観点を導き出せるようにする。 ◇生活班で意見を出し合い、考えるようにする。 ◎「ざたく」と「テーブル」の良さを見つけることができる。 ◎積極的に話し合い活動に参加している。 ◇本文中の対比構造を模倣した定型文を用いて空欄に当てはめられるようにする。 ◎文章の構成に注目し、それぞれの良さや特徴、観点を基に紹介文を書こうとしている。 ◇発表がしやすい場を設定する。 ◎文章の構成を理解した上で発表することができる。 ◇本時で分かったことや友だちの良い所を書けるようにする。 ◎個人の気付きや友だちの良い所を見つけることができる。

